



生活クラブ風車



夢風News

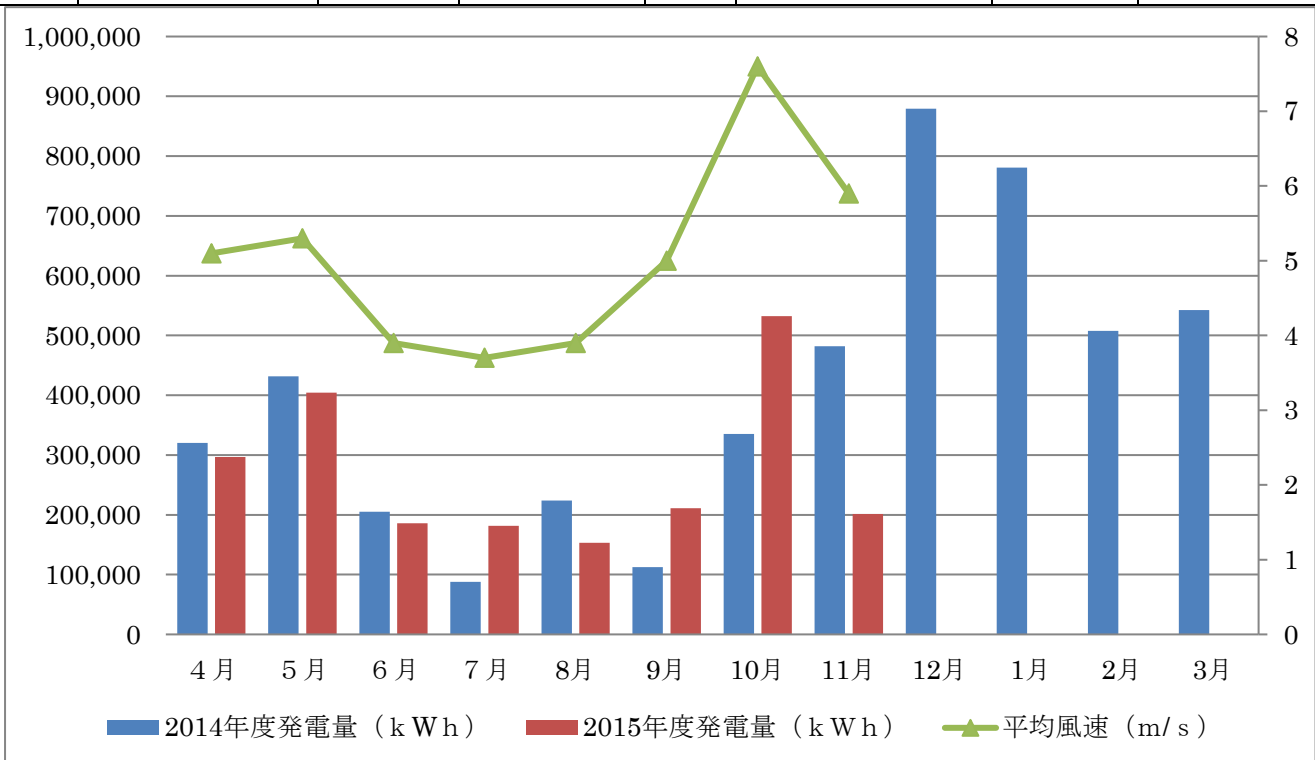
Vol.42

●発行 2015. 12. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

■ 2015年度 発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	296,695【92.6%】	5.1	20.7	10月	532,473【158.8%】	7.6	36.0
5月	404,165【93.7%】	5.3	27.3	11月	201,178【41.8%】	5.9	14.0
6月	185,870【90.7%】	3.9	13.0	12月			
7月	181,669【206.7%】	3.7	12.3	1月			
8月	153,120【68.4%】	3.9	10.3	2月			
9月	210,921【187.2%】	5.0	14.7	3月			



○ 11月は、風況としては過去3年と比べて最も低くなりました。

○ また、11月20日に発生したパワーコンディショナー (PCS) の冷却ファンの不具合により、8日間、風車を停止しました。現在は、ファンを交換し、順調に稼働しています。

○ このため、発電量が前年比を大きく下回る結果となっています。

■事務局リーダー研修開催報告

11月13、14日ににかほ市で、生活クラブ首都圏4単協の事務局リーダー研修を15名の参加で実施しました。23区南生活クラブの太田センターの三木信宏センター長よりのレポートを掲載させていただきます。

.....

聳え立つ風車「夢風」そして、そこに刻まれた、まちの名前を見た時に組合員の思いが形になっている！と素直に感動しました。今回の研修では、西城戸さんの市民風車の現状と課題、を学ぶことができました。(地域との連携等)そして、鈴木亨さんの壮大な構想とこれまでの経緯を聞き、理想を実現することができるんだ！と大きな感銘を受けました。(秋田単協を作ろうとしたなど)元生活クラブ東京の職員であったこともあり、非常に身近に感じました。半澤専務からは、電気の共同購入の今後と事業的な課題を学ぶことができました。大田センターにも太陽光発電(ひかりん)が設置されていますので、今後、組合員の理解が益々進むようにしたいと思います。

そして、今回の研修でもっとも生活クラブらしく今後が楽しみなのが、にかほ市との連携をどこまで発展させていくのかということです。もうすでに夢風ブランドの取り組みがはじまっていますが、風力発電だけでなく、連携して地域を活性化させることができるか？そして、これは生活クラブ視点になってしまいますが、生活クラブの新たな拠点としての、共同購入を通じた地域形成をしていけるのか？です。懇親会でむねの丘の永須さんと話をしましたが、この地域は、TDKばかりで、加工するところがない…。この現状を今の取り組みからどこまで描いて実現させられるのか？チャレンジの連続だと感じました。素直に素晴らしい生活クラブ！と感じました。(対等互惠)

今回の研修を通して、再認識したことは、ずっと生活クラブの各単協が元気でなくては、ならない！この根幹がとても重要で、実現していく為には、重要なことだと感じました。

そして、生活クラブの実践が、大きな事例として伝播して社会を変えていくことが必要だと再認識しました。最後に単協自慢の報告会も非常に参考になりました。

.....

<後列左から5番目が三木センター長>



<代表してナセルに登った千葉単協の松野友昭 事業推進リーダー>



■芹田地区の新しい自治会館の竣工式に参加しました



2015年11月15日、生活クラブ風車の土地をお借りしている芹田自治会の新しい自治会館の竣工を祝う式が執り行われ、半澤彰浩グリーンファンド秋田代表理事と参列させていただきました。

新しい自治会館づくりのコンセプトは地域のコミュニティースペースです。日中、家の中で一人で過ごすならば、ここに来て、おしゃべりしたりお茶を飲んだり、誰でも自由にふらっと来られるオープンスペースとして開放しています。鍵を開けっ放しで大丈夫ですか？とお聞きしたら、誰も知らない人はいないので大丈夫ですとのこと。婦人部のサークル活動や、日中お孫さんを預かるのに駆け回っても安心と使われている方もいらっしゃるそうです。



もうひとつは、屋根に10KWの太陽光発電を設置しています。この太陽光の売電収入を活用して、冬の暖房費に充てるという事です。暖房は、以前は灯油ストーブでしたが、安全性といつ来ても暖かいようにと、電気による蓄熱暖房としました。窓も二重ガラスで断熱性も高い設計になっています。先日、12月

にお邪魔した時もととても暖かくてビックリしました。みんなが安心・安全に自治会館を活用できるようにと、台所のガスコンロもIHヒーターに変えました。太陽光の発電と電気の消費のエネルギー収支もゼロといいます。

また、大広間の床の間の前に、可動式スクリーンとプロジェクターが設置されていて、いつでも生活クラブの皆さんの学習会に使ってくださいますとの事です。大変ありがたく感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

グリーンファンド秋田事務局長 鈴木伸予

■埼玉のくらぶメゾンでにかほフェアを開催しました■

生活クラブ埼玉では、共同購入や地域の拠点として「くらぶメゾン」を3カ所で展開しています。11月30～12月4日の1週間、くらぶメゾンで、にかほの特産品を販売する「にかほフェア」を開催しました。12月2日に、くらぶメゾン志木と鶴ヶ島を訪問させていただきました。それぞれのメゾンで工夫を凝らした展示やアピールがされていて、この日の配達品を受け取に来られた組合員さんとワーカーさんが、にかほの特産品をきっかけに、生活クラブ風車のことや秋田のことなどにふれることが出来る場となっていました。

<写真はくらぶメゾン志木のフェアの様子>





●● 夢風ブランドものがたり ●●

<生活クラブ埼玉>

“女性にやさしい” いちじく製品 開発中

生活クラブ埼玉では、担当理事を含めた5名が毎月1回、いちじくの魅力とそのPR方法及び消費材開発について話し合いを続けています。

企画に参加の話をいただいた時、いちじくは女性の体に効くと聞いたことがあったので家族と自分の健康を気遣う立場の主婦の私は、とても興味が湧きました。不調な臓器には類似形の食品がオススメという冷え症対策でもあります。食物繊維はバナナの10倍、鉄分、カルシウム、カリウムなどのミネラルも豊富で肉、魚類の消化を助けるタンパク質分解酵素を含み、特に女性ホルモンのバランスを整えるエストロゲンが入っているというのなら常食にしないとなりませんね（笑）

しかし、子供時代に生のフルーツしか味わった記憶しかありません。おそらく関東甲信越から西日本に住む方も7～8割はそうなのではないでしょうか？ これは、いちじくにドーフィン、ホワイトゼノアなど様々な種類があり、にかほ市で栽培されている後者は卵サイズでやや小ぶり、耐寒性があり、商品としては主に甘露煮として流通しているそうです。

試食、レシピ考案、試作など毎月1回の打ち合わせ、うち数回はインターネット接続でスカイプを利用し、提携先の佐藤勘六商店の佐藤さんも交えて行っています。そして展開はいよいよ形になりつつあります。

10月の16、17日には現地視察で加工所や畑を見学させていただき、消費材開発の思いを現実に近づけることができました。ホワイトゼノアの木は想像よりも背が低かったのですがこれは収穫のしやすさなど農作業の苦労軽減と、育てるところから女性に優しい畑でもありました。見学で教えていただいた甘露煮の工程の『湯洗い』のできる新鮮なエキスは、甘露煮のシロップにたっぷり含まれ、お菓子作りや料理の隠し味に使いそうと委員全員で好評でした。販売が始まるのは間もなくです。ぜひ注目してください。

生活クラブ埼玉 夢風ブランド開発実行委員会 三浦麗子

